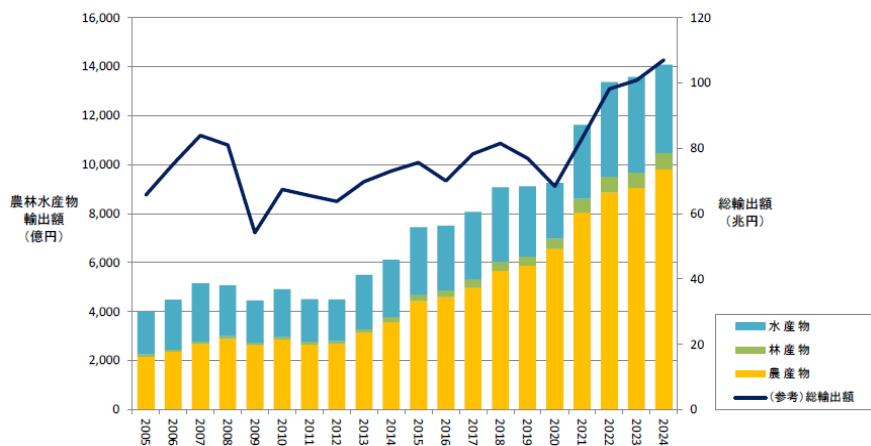


■ 策定の趣旨

豊田市農産物ブランド化推進協議会が主体となり、農家所得向上を目的として、市内産農産物の輸出拡大に向けた方向性を整理するため、本戦略を策定した。市内産農産物の現状や課題、市場ニーズを把握した上で、今後の輸出推進に向けた検討の基礎となる考え方を整理することを目的とする。

■ 日本産農産物輸出を取り巻く環境

- ・農林水産物の輸出は拡大傾向にあり、米国・香港・台湾を中心に、特にアジア市場で日本産農産物の需要が高まっている
- ・コロナ禍後の外食需要回復や円安が輸出拡大の追い風となっている
- ・国・地域により規制・競争環境は大きく異なる



注：総輸出額は、鉱工業品も含めた全ての品目の総計。

出典：農林水産省 農林水産物輸出入概況（2024年版）

■ 本調査におけるマレーシア市場の位置づけ

マレーシアは人口規模と所得構成の観点から、中間層・富裕層を中心とした安定的な消費市場が形成されている。日本産農産物の輸出実績が一定程度あり、制度面での参入障壁も比較的低いことから、今後の輸出拡大に向けた調査対象国として位置づけた。

■ 豊田市産農産物の現状整理（主な課題）

- ・多様な品目を有する一方、生産規模や供給体制、輸出対応状況には品目ごとの差が見られる。
- ・限られた資源の中で効果的な検討を行うためには、品目特性を踏まえた優先順位付けが必要である。

■ 市場調査の実施概要と主な示唆

① 市場調査の概要

国内およびマレーシアにおいて、流通事業者・小売事業者へのヒアリング調査および実地市場調査を実施した。数値評価を目的とするのではなく、実需や現場感の把握を目的とした定性調査とした。

② 主な示唆

- ・市場評価や課題は品目ごとに大きく異なり、供給量や品質の安定性が実現性を左右することが確認された。
- ・輸出に向けては、段階的な取組が適切な品目と、早期展開が期待できる品目が存在する。

■ 市場調査結果を踏まえた品目整理

- ・生産量・市場性・将来性の観点から整理
- ・限られた資源での調査効果を重視

重点品目：桃・梨

[評価] 現地需要が高く、輸出実績もあり実現性が最も高い
[課題] 供給量の確保、ブランド訴求、品質保持

チャレンジ品目：自然薯

[評価] 現地需要が高く、輸出実績もあり実現性が最も高い
[課題] 供給量の確保、ブランド訴求、品質保持

■ 今後の方向性

今後の方向性と段階的取組イメージ



本事業を通じて、輸出拡大に向けた現状と課題を整理し、段階的に取組を進める必要性を確認した。まずは国内市場を起点とした認知度向上および供給体制の安定化を図り、その進捗を踏まえながら、将来的な海外展開を検討していくことが重要である。